

重点方針・事業目標に対する自己評価

令和3年度の教育活動を振り返る

施策名・内容・関連部局（担当部局）

【飯田女子高等学校】

重点方針		掲載頁
1.	「建学の精神」の共有	16
2.	入学者の確保	17
3.	教育の質の向上	18
4.	生徒に対する支援の充実	19
5.	地域貢献・地域連携活動の推進	20
6.	P T A・同窓会との協力	20
7.	進路支援の強化・充実	21

4段階評価 評価A……確実にできた
評価B……概ねできた
評価C……やや不十分だった
評価D……不十分だった

◇重点方針・事業目標・施策名・内容・関連部局（担当部局）

【飯田女子高等学校】

【重点方針】	1. 「建学の精神」の共有
--------	---------------

【事業目標】	建学の精神「美しく生きる」の理解を深め、常に意識する		
【評価指標】	本校の建学の精神の具現化は図れたか 学校生活（授業・行事・課外活動など）において、建学の精神を基とした活動ができたか		
施策名	内 容	関連部局(担当部局)	評価
宗教行事 (入学式・卒業式・各学期毎の始業・終業式・全校朝礼など含む)	① 釈尊降誕会・報恩講への全校生徒と全教職員の積極的な参加を行う。 (評価指標) 宗教行事に積極的に主体的に参加することができたか。	校長 宗教科 学年会	B
学年行事	① 「東本願寺研修」(1年生)を通して、本校が存在する意味を理解し、そこで学んでいく意義を探す。 (評価指標) 本校で学習以外に何を学ぶのかを理解できたか。		C
通年	① 「仏教」の授業はもちろんのこと、その他の授業や行事・課外活動においても、全て仏教の精神がその根本にあり、その考えのもと教育活動を行う。 (評価指標) 全校生徒と全教職員が本校で学ぶことを理解しているか。		B
宗教研修	① 初任研修・宗教研修・宗教担当者研修への積極的な参加。 (評価指標) 研修で得た知識、発見から、自ら本校で仕事をする意義を考え、また伝えることができたか。	管理職 宗教科	C

成果と課題	昨年度来のコロナ禍の中で、例年のような全体集合対面形式の行事ができなくなったことにより、これまでのような成果を上げられていないという意味での評価である。研修においても一部を除き、校外での集合対面形式での研修がほとんど行われなかったこともあり、校内での研修を集合対面形式で前年度より力を入れて取り組んだ。初任者には、本校の教えのふるさとともいえる「善勝寺」への出張見学も含めて研修の機会を意識的に作ったことはよかった。今後はリモートも含め、感染状況に左右されない行事や研修のあり方を工夫すべきである。
改善向上策	校内行事については、感染状況にもよるが、できるだけ集合対面形式による実施を、リモート実施も含めて模索する。

【事業目標】	B (勉強) A (挨拶) S (掃除) E (笑顔) の基本を大切にする		
【評価指標】	本校の生徒としての基本的な行動を身につけられているか		
施策名	内 容	関連部局(担当部局)	評価
BASEの励行	① 普段から「勉強・挨拶・掃除・笑顔」を意識し、学校生活を送る。 (評価指標) 何のために勉強し、挨拶し、掃除し、笑顔であるのかを自覚でき、実践できているか。	学年会	B

成果と課題	職員の中には、コロナ禍による影響もあり、集合などの離合集散の機会が減っている状況の下で、往時のような「BASE」のレベルを維持できていないのではないかと反省がある。
改善向上策	どのような状況であれ、全体や学年会、係において折に触れて原点に立ち返り、倦まず絶ゆまず追求してゆく。

【事業目標】	南無阿弥陀仏の教えを学ぶ		
【評価指標】	「私にかけられた願い」に気づき、感謝の心を持って生き生きとした生活を送ることができているか。		
施策名	内 容	関連部局(担当部局)	評価
「いのち・時間・ことば」	① 「いのち・時間・ことば」を大切にする。 (評価指標) 自分の人生を大切に生きているか。	学年会	B

成果と課題	コロナ禍であっても、学校長講話を軸にして、宗教科の授業、学年会（含む各HRでの指導）で、指導されており、校内では「いのち・時間・ことば」を大切にしようという気風が感じられる。教科、学年、各クラスでどのように扱われ、どのような指導がされたのか、集約や交流し教訓化するなどの必要性もある。
改善向上策	学校長講話やどのような状況であれ、全体や学年会、係において原点に立ち返り、倦まず絶ゆまず追求し、可能な範囲で反省・集約。交流するなどの努力を行う。

【重点方針】	2. 入学者の確保
--------	-----------

【事業目標】	入学生数の安定を図る。(教職員全員が募集活動)		
【評価指標】	9区の中中学生女子（卒業時）の25%を常時確保できたか。 中学校数22校からプラス1名ずつ確保できたか。 通信制課程は、新卒者10名確保できたか。		
施策名	内 容	関連部局(担当部局)	評価
本校の特色の明確化	① 私学・仏教・女子教育を明確に打ち出す。 (評価指標) 地域から、理解され、認められているか。	校長 管理職 生徒募集 広報	A
入試選抜方法の改定	① 本校独自の入試方法を行う。 (評価指標) 入試方法の改定が中学校側に理解され、多くの受験生があったか。	管理職 教務	B
進学コースの見直し	① 進学コースの内容を検討し、より本人の進路にあったコースを選択できるようにする。 (評価指標) 平成30年度入試より新進学コース（S・E）が開設され、入学者が増えたか。	生徒募集	B
施設設備の充実	① 学習活動・課外活動がより安全に効果的に行えるように施設設備を整える。 (評価指標) 講堂の新設か耐震設備か取り壊すかの議論を行えたか。自習室の拡充ができたか。	管理職	C

成果と課題	少子化の影響で、女子中中学生徒数の減少にもかかわらず、ほぼこの十数年来の入学者数を維持しており、単年度の募集活動においては成果を上げ、「入学生数の安定」の範疇にあると言える。しかし、中長期的には不十分であり、この分野での工夫と努力が大いに求められる。
改善向上策	全職員が状況や局面を正しく認識し、各施策毎の対策の強化と具体化とともに、全体の中でのバランスを考慮した立体的な追求が必要である。

【重点方針】	3. 教育の質の向上
--------	------------

【事業目標】	個々の学力・人間力の向上を目指し、進路の実現を図る		
【評価指標】	授業に積極的に取り組む姿勢を身につけたか。 家庭学習に通じる効果的な課題が提示できたか。 生徒の学力を把握しそれに応じて丁寧に指導できたか。 生徒に興味関心を持たせ学習意欲を高められたか。 わかりやすい授業ができたか。 教材研究が意欲的かつ積極的にできたか。 研修や意見交換などを通じて切磋琢磨できたか。		
施策名	内 容	関連部局(担当部局)	評価
学習習慣の確立	① 新教育課程に即し、本校独自の教育を行う。 ICTを活用しての「個々に応じた学び」を行う。 探求活動を積極的に授業に取り込む。 (評価指標) 新教育課程に応じた学びが実行できたか。	教務 進路	C
学力の向上	① 「高等学校基礎学力テスト」に備え、全生徒の基礎学力を向上させる。 (評価指標) 「高等学校基礎学力テスト」の結果を踏まえ、更なる指導にあてたか。 ② 「大学入試希望者学力評価テスト」に備え、全生徒(大学進学希望者)の基礎学力及び応用力を身につける。 (評価指標) 「大学入試希望者学力評価テスト」の結果を踏まえ、学力を向上させ、志望校に入学させることができたか。		C
教職員の校内外の研修・教授法の研究	① 新学習指導要領に応じて、アクティブ・ラーニングや資質・能力の育成、カリキュラム・マネジメントの研究と実践を行う。また高大接続改革を推進すべく、そのための研修会などにも全教職員が取り組む。 (評価指標) 新しい時代に相応しい教授法が展開できたか。	管理職 教務 教科	C
	② 各教科研究授業を行い、教職員が見学し、反省会を行う。 (評価指標) 自らの授業の糧にし、その後の授業に生かしているか。		B
	③ 研修後、インプットしたことを、口頭もしくは文書でその他の教職員にアウトプットし、身につけた教養を共有できるようにする。 (評価指標) 発表者の教養が他の教職員に伝わったか。		C
	④ PTA 向けの公開講座を設ける。 (評価指標) 授業を受けた保護者が、生徒と同じような立場で授業を受けることにより、学校・教員理解につながられたか。	教務 教科	C

成果と課題	学校の機能にとってこの本質的な目標の達成のために、職員は日々努力を重ねている。しかし、「C」の評価多いのは、コロナ禍にあって、集合対面の活動が減少したことにより、本来の成果を得られないという意味である。とくに、双方向のリモート授業の実施などICTの活用という点で設備の充実という面では充分とは言えない。
改善向上策	全職員が状況や局面を正しく認識し、各施策毎の対策の強化と具体化とともに、全体の中でのバランスを考慮した立体的な追求が必要である。

【重点方針】	4. 生徒に対する支援の充実
--------	----------------

【事業目標】	基本的な生活習慣の確立／自己肯定感の育成／自利利他の精神		
【評価指標】	自ら率先し主体的に行動できたか 生徒自ら主人公となり「私の学校」という意識を持って主体的に行動できたか 様々な活動を通して自らの姿に気づき他の幸せを私の幸せと感じられるようになったか		
施策名	内 容	関連部局(担当部局)	評価
基本的な生活習慣の確立	① 欠席・遅刻・早退の原因を把握して、適切な指導を行う。 (評価指標) 欠席・遅刻・早退が減少したか。	生徒指導 特別支援 学年会	B
	② 身だしなみについて日常的に意識させる。 (評価指標) 清楚でTPOに応じた高校生らしい服装ができていますか。		B
初期段階の事前指導	① ホームルーム・授業・クラブ活動など学校生活の諸活動の場面で生徒の変化に気づき、適切な対応を図る。 (評価指標) 早い段階で生徒の悩みを見つけ、解決できたか。		B
心の安定を図る指導	① 様々な不安や悩みから言動に変化が表れる生徒に対し、教員が1対1での対話を通じて心の安定を図る。 (評価指標) 不安や悩みを持つ生徒が安心して相談でき、その相談が解決に向かったか。		B
全教職員の連携	① 全教職員が学年や係などのそれぞれの立場で連携をとり、指導にあたる。 (評価指標) 不安や悩みを持つ一人の生徒に対し、教職員が把握し、指導にあたれたか。		B
生徒会、クラブ活動などへの参加	① 生徒の自主的活動を促す指導をする。		C
	② 様々な場面で、周囲の人の気持ちや立場を尊重して発言し行動できるように指導する。		B
	③ 将来、主権者として、世の中の出来事に関心を持ち、行動できるように指導する。 (評価指標) ①②③ 全生徒が課外活動に積極的に参加し、教室以外に自分の居場所を確保できているか。	C	
	④ 生徒の自主的活動を促す指導をする。 (評価指標) ①②③④ 全生徒が課外活動に積極的に参加し、教室以外に自分の居場所を確保できているか。	C	
活動・運営の仕方	① 生徒会・クラブ活動など生徒の自主的な組織のルールやマナーを守り、民主的に運営されるような指導を行う。 (評価指標) その活動を通して、社会性、遵法精神を身につけたか。	学年会 課外活動	B
文化祭への取り組み方	① 本校文化祭の意義や理念を知り、それを実現するために努力できるような指導を行う。	C	
	② 文化祭の各企画を各自が立案、準備、運営、協力を尽力できるように指導する。	C	
	③ 文化祭の係分担について各自が自分の役割を理解し、責任を持って仕事を実行するように指導する。	B	
	④ 生徒の充実感や達成感と共に高い文化レベルを追求するように指導する。 (評価指標) ①②③④ 毎年の文化祭を通して、生徒個々が人間的に成長できたか。	C	

成果と課題	生徒に対する支援の充実に関しても各分掌や学年会（各クラス）で職員の努力によって継続されている。しかし、特にこの分野に関しては、職員個々や分掌でPDCAサイクルに基づく反省と教訓化が、職員組織全体として集約しづらい点が課題である。
改善向上策	次年度は、学校評価を目的とした生徒保護者アンケートを適期に年3回行い、生徒保護者の意識を把握した上で3学期から3月の年度末に各分掌において適切に中長期計画に基づく反省を行い、積極的に改善してゆくこととする。また、各行事ごとでは、その都度全職員から募ったり、各係毎には反省の機会がつけられているので、ICT機器の活用（Teams等）も含めて職員全体での情報共有を図ることが大切である。

【重点方針】	5. 地域貢献・地域連携活動の推進
--------	-------------------

【事業目標】	地域と連携し、地域に貢献できる学校を目指す。また地域に開かれた学校作りを行う		
【評価指標】	地域から愛され、選ばれる学校になったか		
施策名	内 容	関連部局(担当部局)	評価
地域と連携 地域へ貢献 地域からの理解 と協力	① 地域行事、ボランティアに積極的に参加する。 (評価指標) 本校の理解を深められたか。	課外活動 キャリア教育 推進	C
	① 広報活動の充実を図る。(HPの研究と充実・広報誌の発刊・地方紙への記事の提供など) (評価指標) 広く地域の方に本校の活動を知らせ、理解と協力を得られたか。	生徒募集 広報	B

成果と課題	この分野に関しても、地域行事等校外での催し物を自粛する風潮のピーク時と比べて回復しつつあるとは言え、「コロナ禍」以前は、地域の行事等へのボランティア参加者数が、地区内の高校の中で比較的多かった本校の往時の活動参加件数や参加延べ人数は減少している。このような意味で従来の成果レベルと比して「C」という評価をしている。従って困難な中でも職員の努力は継続されている。広報活動についてはコロナ禍で、職員の仕事量の激増のあおりを受け、HPの一部データが滞ったこともあったが、改善された。なお、学校評議員会では、本校生徒の地域での存在や活動や影響が評価される意見が出されたり、地域の小学生などへの援助者としての本校生徒の役割の大切さが指摘されたりしている。
改善向上策	引き続き、地域行事への協力を継続し、生徒には地域と本校のとの関わりについて折に触れて指導する。

【重点方針】	6. PTA・同窓会との協力
--------	----------------

【事業目標】	PTA・同窓会と協力して学校運営を活発化する		
【評価指標】	PTA・同窓会が積極的に学校運営に参加したか		
施策名	内 容	関連部局(担当部局)	評価
PTAと連携 PTAからの理解と 協力	① PTA活動のあり方を再検討する。(学校行事・講演会・公開授業・PTA研修など) (評価指標) PTAの積極的な参加があったか。本校の教育活動に理解と協力を得られたか。	管理職 PTA係	B
同窓会との連携 同窓会からの理解と 協力	① 同窓会活動に対して、同窓生の積極的な参加を促す。 (評価指標) 同窓生が本校の教育活動に興味を示し、同窓会活動や募集活動に協力的になったか。	同窓会担当者 (事務局)	B

成果と課題	数年前に「地区PTA」を廃止するなど、改革の途上といえるが、これも「コロナ禍」の中でPTAの活動が制限されたり、保護者の登校機会が減少したりすることでPTAは必要最小限規模の活動という制約を受けている。同窓会についても、母校成人式や文化祭時の会合などが足かけ3年にわたって実施できずにいる。困難な中でも、このような活動を行っている反面、往時のような活動を展開できないという意味で「B」という評価である。
改善向上策	国の感染症対策や方針の変化に対応し、今後、可能な限りPTA、同窓会ともに往時の活動ができるよう工夫と努力を重ねる。当面、保護者や同窓生が少しずつ学校の活動に関わることができるよう配慮する。

【重点方針】	7. 進路支援の強化・充実
--------	---------------

【事業目標】	卒業生全員の進路希望の実現を目指す		
【評価指標】	卒業生全員が自分の目指した進学・就職ができたか		
施策名	内 容	関連部局(担当部局)	評価
自己理解	① 自らの個性や傾向性と真摯に向き合い、自己理解を深める。自らの長所・短所について自覚的に行動し、それに基づいて将来を構想する。 (評価指標) 個々の生徒が自らのアイデンティティを確立し、自己実現を目指し、行動しているか。	進路指導 学年会	B
受験への対応策	① 校外模試や検定試験を積極的に活用する。面接や小論文に必要なコミュニケーション能力・一般的な知識・論理的な思考力を向上させる。 (評価指標) 入試・就職試験に合格すべく、基礎力・応用力を身につけたか。		C
進路情報の提供	① 進路ガイダンス等を有効に機能させる。有益な進路情報を然るべき時期に、生徒・保護者に向けて伝達する。 (評価指標) 将来に向けて、個々が考え出すタイミングで、有効な進路学習や情報を提供できたか。		B
ポートフォリオの作成・導入	① 個々の生徒が入試で使用するポートフォリオの作成を行う。 (評価指標) ポートフォリオの記入、保存、役立て方を学び、受験に役立てたか。	学習 進路指導 教務	C
大学進学実績の向上	① 大学学力共通テストに備えて、カリキュラムの見直し・改善・再構築を図る。 (評価指標) 令和3年度までに新カリキュラムを作成したか。	進路指導 教務	C
就職活動への支援	① 就職観や労働観を健全に育む。自らの人生を真剣に考え、どのような職業に就くべきか考察する。 (評価指標) 就職希望者の全員が合格を得たか。	進路指導 学年会	B

成果と課題	この分野に関しては、進路指導の事業ではあるが、多岐にわたっているという点や「コロナ禍」のために往時に行われていた「学習合宿」などの実力養成の機会を充分にとれなかったという点、また、新教育課程への過渡期であるという条件を考え合わせると、端的な評価が難しい。評価は、このような点を踏まえての評価である。
改善向上策	「コロナ禍」であっても少しずつ往時のような活動に戻してゆくとともに、教科指導とも関わるため、丁寧に反省し、全職員で共有し、次年度に生かす。